



にじいろ通信



ひと つた はなし 人に“かいて伝える”ことの話

先日、ある学校でクラスの様子を見ていた時、支援員の先生が伝えたいことを“ふせん”に書き、そっと子どもの机に貼って様子を見守る、という場面を見かけました。その子は、ざわざわした場面でそわそわと落ち着かない様子でしたが、その付箋をじっと見た後、支援員の先生に話しかけ、なにやらノートに書き始めました。普段の何気ない様子でしたが、その先生は普段から付箋を持ち歩き、絵や文字を“かいて伝える”ことを意識しているようでした。

“かいて伝える”こと。みなさんは普段どのくらい意識していますか。

人には「ワーキングメモリー」という、耳で聞いたことを一時的に覚えておく、「仮の記憶保管庫」のようなものが備わっているといわれています。この保管庫、“大きさ”も“保管期限も”みんな違ってきます。

また、「カクテルパーティ効果」ともいわれる、自分に必要な音を聞き分けて理解するという能力も備わっていますが、これも、差があります。

保管庫の大きさや、聞き分けることの得意不得意の違いは見てわかりません。

集団の中で何かを伝えても、聞いていないように見える、忘れてしまう理由にはこういったものもあるかもしれません。

うらめん つづ
(裏面へ続きます)

絵や文字にすることは、時間がかかりますが、後で見返すことができます。

学校にも代表的なものとして時間割がありますが、伝える側も、何度も同じことを言わなくてよい、というメリットもあります。

もちろん、“かいて伝えること”も万能ではありません。SNS や交換ノートなど、相手が近くにいない状況だと、“かいたこと”が誤解されたまま広がりやすく、知らない間に不信感を持たれていた、などということもあります。

ただ、お互いに顔の見える状況であれば、“かいたもの”を一緒に見て、「ここはどういう意味?」、「それはこうだよ」など、ずれを小さくできる可能性があります。

“かいて伝える”こと。いつもの生活で、あえて意識してみることで、違った発見があるかもしれませんよ。

書いた人 大久保 尚也



スクールソーシャルワーカーへのご相談は、所属している

学校、幼稚園・保育所、施設等までご連絡いただくか、

以下の連絡先までご相談ください

TEL : 0243-24-5445 (内線1246)

✉ : ssw@city.motomiya.lg.jp ⇒⇒⇒⇒⇒



もとみやしきょういくいいんかい ようほがっこうか しやくしょ2かい
本宮市教育委員会 幼保学校課 (市役所2階)

スクールソーシャルワーカー (大久保・加藤)



イラスト：ももこ、たろうまる

※にじいろ通信はスクールeネット「教育委員会のページ」でもご覧いただけます⇒⇒⇒

